❶大仙堀

醤油の原材料や商品が積み下ろしされた内港。石積の堀に建ち並ぶ醤油蔵など独特な景観を形成しています。

❸太田久助吟製

建築年代は江戸後期。元は醤油醸造家でした。現在は金山寺味噌の製造を行っています。

❹加納家

大正10年建築。その時代に流行した黒漆喰仕上げの2階には、袖壁や繊細な木格子の窓など凝った装飾が見られます。

❺北町茶屋いっぷく

江戸後期の民家を改装した茶店。外観からは想像できない広々とした吹抜けの店内は湯浅の町家の特徴です。

❻手作り行灯・麹資料館

かつては醸造に用いる麹(こうじ)の製造販売店。主屋は明治11年の建築。様々な行灯と古民具を見学することができます。

❼竹林家

長大な間口に6つの虫籠窓がずらりと並ぶ主屋は、古くは醤油と漁網の販売を営んでいました。

お休処 立石茶屋

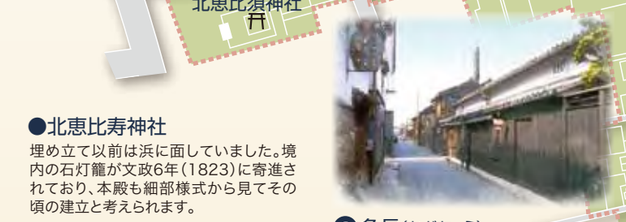
立石道標の対角に建つ江戸後期の町家を改修した休憩所。道町界隈では、ほかにも木造3階建てや卵建(うだつ)、望楼状の3階があるものなど、趣向を凝らした個性的な建物が多く見られます。

❽栖原家

明治7年建築の醤油醸造家の主屋は、全体的な構造から細部意匠に至るまで湯浅特有の様式をよく残しており、代表的な町家建築として位置づけられています。

道町の立石道標

糸我峠～方津戸峠を越え、中世後期以降の熊野街道は湯浅で市街地を通過しました。街道筋に発達した道町にある天保9年(1838)建立の道標は、今も人々の往来を見守り続けています。



●北恵比寿神社

埋め立て以前は浜に面していました。境内の石灯籠が文政6年(1823)に寄進されており、本殿も細部様式から見てその頃の建立と考えられます。

❷角長(かどちょう)

天保12年(1841)創業。慶応2年(1866)建築の職人蔵と醤油資料館には古い醸造用具や貴重な史料が展示されています。

❿旧赤桐家

明治40年建築でかつては醤油醸造家の主屋でした。町家建築としては最大級の規模を誇ります。長さ5間半以上に及ぶ虫籠窓や起くり(むくり)屋根が特徴です。

⓫甚風呂

江戸時代から昭和の終わりまで営業していた小路にあるお風呂屋さん。個性的な外観と建物内部を保存・復元し、往時の生活様式を伝える資料館として公開しています。

⓬湯浅伝建地区休憩所 岡正

鍛冶町通りと北町通りの角にある観光案内・物産販売所。元は「岡正(オカショウ)」という屋号の酒店でした。

小路・小路(しょうじこうじ)

通りを歩いていると、見過ごしそうな細い路地が家々の間から顔を覗かせています。これらは小路(しょうじ)または小路小路と呼ばれ、主要なものには名前が付けられるなど人々の暮しと密接に関わっています。通りとは一味違った静かで懐かしい風情を体感してください。

◎モデルコースの所要時間

- JR湯浅駅
- 徒歩約8分
- 道町の立石道標
- 徒歩約1分
- 深専寺・大地震津波の碑
- 徒歩約3分
- 重要伝統的建造物群保存地区
- 徒歩約5分
- 岡正・北の町老人憩いの家
- 徒歩約3分
- 北町ふれあいギャラリー
- 徒歩約2分
- 角長職人蔵・醤油資料館
- 徒歩約2分
- 大仙堀
- 徒歩約8分
- 甚風呂
- 徒歩約18分
- JR湯浅駅

厨子(つし)二階と本瓦葺

●太田久助吟製

明治頃までは厨子二階と呼ばれる低い2階建で、2階部分は物置や使用人部屋でした。年代が新しくなるにつれて建ちが高くなり、やがて総二階となります。
屋根瓦は本瓦葺の伝統が大正期頃まで強く残っています。

❾木下家

重厚な表構えの主屋は、広大な敷地を有した醤油醸造家の居宅でした。建築年代は江戸後期と考えられます。

幕板(まくいた)

●麹資料館

庇の軒先に下げられている木製の板を幕板といいます。これは、雨水や霧状になった雨粒が屋内に吹き込むのを防ぐためのものです。降水量の多い地域ならではの意匠上のポイントでもあります。

虫籠窓(むしこまど)

●木瓜(もっこう)型

近世～近代初頭頃の建物の2階に見られる窓で、格子を漆喰で塗り籠めています。単純な四角形か木瓜(もっこう)型に分かれますが、周囲に額縁を施した重厚なものなど、様々なデザインがあります。

匠の技と文化を今に伝える町並み

歴史の意匠めぐり散策マップ

湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区

格子(こうし)

●手摺状の格子

●切子格子

●出格子

古くは、トオリニワ横のミセには取外し可能な高さ3尺程度の手摺状の格子、ミセオクの表には繊細な切子格子が建て込まれています。大正期以降になると長大な出格子が多く見られるようになります。